

症例検討会のお知らせ♪

＜血液内科＞

日時：平成30年9月下旬 19:30～21:00
 会場：多摩北部医療センター 2階大会議室
 演者：多摩北部医療センター 血液内科

お申し込みは、
 当院の地域医療連携室
 にご連絡ください。

市民公開講座のお知らせ

演題：そろそろ透析と言われたら
 ～慢性腎臓病の治療と腎代替療法～

日時：平成30年9月11日(火) 14:00～15:30
 会場：東村山サンパルネ2階コンベンションホール
 演者：多摩北部医療センター腎臓内科医長 佐藤 寛泰
 参加費：無料
 定員：100名
 ※予約不要。直接会場にお越しください。

お問い合わせは、
 当院の企画係まで。

多摩北部医療センター 平成30年8月
 地域医療連携ニュース

たまほく

第114号

たまほく脳神経外科のご紹介

脳神経外科 西田 翔



6月1日より多摩北部医療センター脳神経外科の常勤医となりました。これまでは当院脳神経外科では開頭手術を行っていませんでしたが、現在は防衛医大脳神経外科と連携して、脳出血をはじめクモ膜下出血や外傷、脳腫瘍など様々な疾患を診察し、手術が可能となりました。また脳神経外科の救急診療についても力を入れていく予定です。

《当院で行っている脳神経外科治療》

【脳出血】

意識レベルの低下や麻痺等の脳神経症状が出現した場合、必要に応じて開頭血腫除去術を行います。意識の改善やリハビリテーションへのスムーズな移行を目指します(図1)



図1.開頭血腫除去術
 血腫を摘出しているところ

【クモ膜下出血】

動脈瘤の破裂により起こります。再破裂を起こすと重症化するため再破裂予防が必要です。再破裂予防には開頭による動脈瘤クリッピング術、血管内治療による動脈瘤コイルリング術があります。当院では主に動脈瘤クリッピング術を行っております。(図2、3)

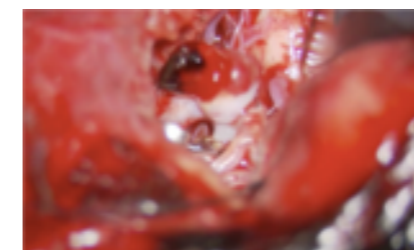


図2.開頭クリッピング術、動脈瘤を確認したところ。

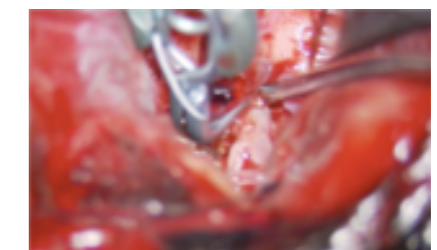


図3.動脈瘤をクリッピングしたところ

【脳腫瘍】

脳腫瘍の治療も行っております。開頭腫瘍摘出術や術後の放射線治療を放射線科と連携して施行しております。(図4)

紹介・予約のご案内

患者さんのご紹介にあたっては「紹介状(診療情報提供書)」と「受診科のご予約」をお願いいたします。また、紹介状には受診科の明記をお願いいたします。初診時に紹介状が無い場合は、診療費の他に選定療養費として1,338円(税込)が加算されます。

予約センター

予約専用電話:042-396-3190・3511

予約受付時間：月～金曜日 9時～19時・土曜日 9時～12時
 ※お急ぎや受診予約希望や、受診に関してご相談等の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。
 (受付時間：月～金曜日 9時～17時)

各種検査予約

代表電話番号:042-396-3811

放射線

代表番号より下記へご連絡願います。(受付時間：月～金曜日 9時～17時)
 CT・一般X線検査：内線 2236 MRI検査：内線 2600
 核医学検査：内線 2140 放射線治療：内線 2073・2169

内視鏡

予約センター又は地域医療連携室へご連絡の上、「内視鏡外来(金曜午後)」のご予約をお願いいたします。なお、内視鏡外来は、紹介予約制とさせていただきます。



《地域医療連携ニュース「たまほく」に関するお問合せ》
 地域医療連携室 042-396-3811 内線 2073



(中面へ続く)

(前面からの続き)



図4.開頭腫瘍摘出術
腫瘍を摘出しているところ

今後も近隣の医療機関の先生方とともに北多摩北部地域の脳神経外科疾患を診ていきたいと考えております。積極的に患者様を受け入れていきたいと考えておりますので何かお困りの際は当院にご相談いただければ幸いです。

今後とも変わらぬご支援いただければと思います。よろしくお願いいたします。



「腎臓リハビリテーション療法」をご存知ですか？

腎臓内科部長 小林 克樹



皆さんは「腎臓病」と聞いて、どんな印象をお持ちになるでしょうか。腎臓外来を受診される患者さんに時々お聞きするのですが、「腎臓病の原因なんて良く分からない」とか「どんな症状が出るのか知らない」とおっしゃる方もいらっしゃいます。それ以外にも「ずーっと安静にしていなさいいけないんでしょう？」とか「食事制限が大変そう」などの声もよく耳にします。実際に20年ほど前までは、一度、腎臓病にかかると、運動を禁止され、厳格な食事療法を強いられることがほとんどでした。しかし、そうしたこともあってか、慢性腎臓病の患者さんの身体機能（例えば歩く速度など）は健康な人に比べて約7割に低下していることが分かっています。最近になって、このような状況は腎臓病自体にも良くないし、生活の質が落ちる原因にもなっているという研究結果が報告されるようになり、今までの運動指導や栄養指導をもう一度見直そうという機運が高まりつつあります。特に運動指導に関しては、患者さんの状態に合わせた適度な運動は、むしろ積極的に行うべきとする考え方が有力となりつつあるようです。このような積極的な運動療法を始めとした、食事療法・薬物療法・教育・精神心理的サポートまで含んだ長期的で包括的なプログラムにより、単なる生命予後の改善を超えて、患者さんが有意義な人生を送れるようになることまでも目指した治療法を「腎臓リハビリテーション療法」と呼んでいます。

もちろん、従来の運動療法や食事療法を否定するわけではありませんし、それなりに制限を受ける部分が多いのも事実ですが、腎臓病を抱えながらもより良い生活を志向することは、これからの超高齢社会を迎えるにあたって重要なことではないかと思えます。



栄養食事指導のご紹介

栄養科長 星 博子

栄養科では食事療法が必要な糖尿病、高血圧、慢性腎臓病等の栄養指導を行っています。また、がん治療中で食事が進まない方、摂食嚥下障害のある方、除去食が必要な小児食物アレルギーなどの指導も実施しています。

経験豊富な管理栄養士(糖尿病療養指導士4名、病態栄養認定管理栄養士2名在籍)が、患者さんそれぞれの生活スタイルや食習慣を伺いながら、わかりやすく実行可能な指導を実施しています。また、低エネルギー食品、低たんぱく食品、栄養補助食品、介護食品等の情報提供も行っています。

地域医療連携の一環として、連携医の先生からのご依頼を受け、「連携栄養指導」も行っています。血糖コントロール不良や塩分摂取過剰など、食事療法の実践が困難な患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。「連携栄養指導」のお申し込み、ご相談につきましては、地域医療連携室までご連絡ください。

連携栄養指導の詳細は、ホームページをご確認ください。
(<http://www.tamahoku-hp.jp/institutions/eiyou.html>)



<栄養指導風景>



がん性疼痛認定看護師について

看護相談室 鈴木 悦子

日本では2人に1人ががんに罹患するといわれています。治療中のがん患者の約半数が痛みを体験しています。痛みは患者のQOLを著しく低下させます。そして、痛みを苦しむ姿をみることは、側にいる家族にとってもつらいことです。がん性疼痛認定看護師は、患者の痛みを少しでも緩和するように支援するのが役割です。院内では、緩和ケアチームの一員として、主にがん患者の症状緩和、病名・病状告知時のサポートや療養場所の選択などに関わっています。

当院の緩和ケアチームは、医師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、看護師で週1回のラウンドをしています。対象患者は、各部署からの依頼ケースのほか、麻薬を使用しているケースを担当薬剤師がピックアップしています。また、対象者が多い病棟には、苦痛のスクリーニングに協力して頂いています。自記式の用紙を用いて、身体面、精神面、経済・社会的な面で生活への支障がないかを確認し、緩和ケアの早期介入につなげています。

患者さんは、様々な痛みを抱えながら生活しています。痛みは主観的なものであるため、本人が体験している痛みを丁寧に聴いていくことが必要になります。多職種で協力して、患者さんの苦痛の緩和に努めていきます。

